

末止此亦不爲當

〔重修本草綱目啓蒙三十三〕伯勞

モズ和名 サ、ラ、ト、バ、リ古歌

一名鴟鳩通雅

モズハツグミヨリ小クシテ、首大ニ眼淡黒圓大ニシテスルドナリ、眼邊黒クシテ鷹ニ似タリ、頭背赤褐色兩翼淡黒青ニシテ、黒斑白點少シアリ、咽腹ハ白色、胸ハ赤褐ニシテ、小波文淺シ、背ハ淡黒色末曲リ尖リ細長ク至テ銳ナリ、脚ハ黒シ、常ニ小鳥ヲ捕ヘ食フ惡鳥ナリ、秋時鳴ク、此鳥ヲ捕ルニハ、其子ガヒノ臉ヲ縫テ囹ト爲シ、鳴カシメテ誘ヒ取ル、

鴟種類

〔喚子鳥下〕百舌鳥

鳥がひ

右同斷〇生五壹五分、あをみ入、粉壹五

大ききすゞめにばいせり、總身かき色に赤し、つら白く、くろきすぢ目のよこに引たり、さへづりよし、あら鳥は小鳥をくらふ、かひ鳥に成がたし、子がひをすりゑにてかひ立鷹のごとくならはしめて、はいをとらし、すゞめをとらしむ、

鳥〇も〇す

鳥〇が〇ひ
生五壹五分、あをみ入、粉壹五

大ききもすにて、毛色ももすに似たり、少しのかはりあり、轉りよし、子がひ重寶す、めづらしきるいなり、

關〇東〇も〇す

鳥〇が〇ひ
右同斷

大ききひよ鳥に大きし、せの色あさぎにねすみ色なり、つら白く、目の邊にくろきすぢ有て、もすのつらにて、かたちはくわんとう尾長ににたり、小とりをくらふ、かひ鳥になりがたし、

〔飼鳥中必用〕朝鮮百舌

此鳥頭淺黄にて背赤く腹白、形常の百舌同じ、少シ小ぶり也、春は三月末薩州指宿郡、頼娃の郡の内に見ゆる、此内赤百舌まじりて飛來、鳥百舌は雄赤百舌は雌と見ゆる、なんぞ別の種にあらず、〔飼鳥下必用〕入道百舌